

カ ッ パ 150 G について

糸 川 英 夫

1. カッパ 150 G の計画

6月に予定されていたカッパ6型-TW1,2号機のテストに先立って、TW系のメインロケットのみ（ブースタをつけない1段式ロケット）で、TW機のメインロケットのテストが計画され、5月に飛しょう試験が行なわれた。

これを K-150 G と称する。製作機数は1機で、設計は K-6 型-TW1,2 のメインロケットと全く同様である（第1図参照）。

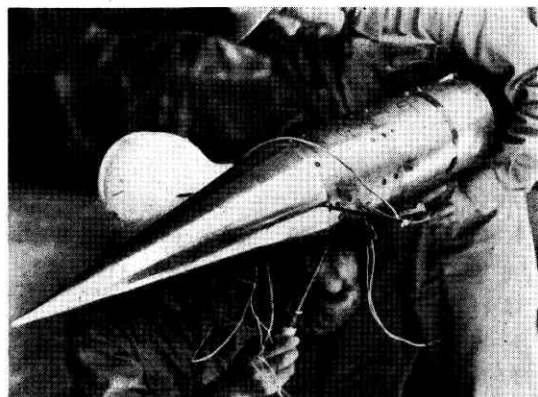
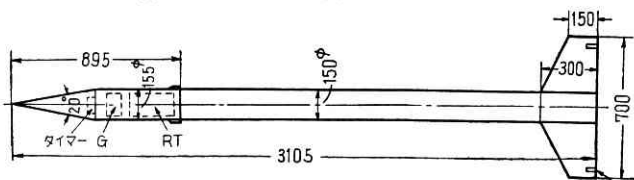


写真1 発音弾、タイマー取付部組立作業



写真2 ランチャー上の 150 G



第1図 カッパ 150 G

諸 元: $L=3,077$ mm
 $W_T=69.95$ kg
 $C.G.=58.0\% \sim 53.3\%$

$\theta=60^\circ$ での性能計算結果は

$V_{max}=740$ m/sec $t_{b.o.}=7.9$ sec
 $z=5.4$ km $x=5.5$ km



写真3 発音弾とタイマーリード線の結線作業

2. 飛しょう

テストはカッパ5型-2と同期の33年5月に行なわれた。

諸 元: $L=3,077$ mm
 $W_T=69.47$ kg
 $C.G.=57.3\%$

Grenade=薬量 1 kg. 作動時間: X+30 秒

レーダ・トランスポンダを有す。

飛しょう時日: 昭和 33 年 5 月 27 日 12 時 45 分

発 射 角: 60°

風 : 南西, 3 m/sec

天 候: 快晴, 気温 19°C

ロ ケ ッ ト: 正常に飛しょう

時 限 装 置: X+30 sec で計画通り作動

発 音 弾: 完作動

受 音: 完測

レ ー ダ: 自爆点まで完測

3. 結 論

時限装置、発音弾、受音系に一応の自信をもつことができ、これでいよいよブースタつき2段ロケット、カッパ6型-TW1,2号のテストに乗り出すことになった。(1959.5.8)

RTアンテナ